

10年目の公開セミナー、北と南で大盛況

環境保全研究所の公開セミナーは今年で10年目を迎えました。研究所スタッフが県内各地に出向き、自然環境保全に関わる研究成果発表や環境保全の課題等について自由な意見交換を行ってきました。今年度は信濃町と茅野市の2会場で開催し、両会場とも大勢の方に参加をいただきました。セミナー開催にあたり、共催をいただいた信濃町と同町教育委員会、茅野市、また後援をいただいた茅野市教育委員会に感謝いたします。また当日の発表者の方々や準備に協力をいただいた町や市の担当の皆様、地元活動団体の皆様に、心からお礼を申し上げます。以下に各会場の様子と、発表の要旨をまとめてご報告します。
(企画担当：富樫 均・堀田昌伸)

<信濃町会場>

信濃町は、山と森と湖に囲まれ、雪という資源にも恵まれた地域です。

講演では、はじめに地元の博物館で学芸員をされている近藤洋一氏より、野尻湖の自然の成り立ちと、人と自然との関わりの歴史などを幅広く解説いただきました。会場には、野尻湖底の地層の標本や、ナウマンゾウの臼歯等の展示もいただきました。講演内容の詳細は、本特集に紹介しますのでご覧ください(P4参照)。

次に、研究所の富樫より、飯縄山周辺の積雪分布とその変化等、3年前から行ってきた冬季一斉積雪観測の成果を発表しました。これはちょうど生誕250年を迎えた小林一茶の句「是がまあ つひの栖か 雪五尺」にちなんだ話題でもありました。

続いて、大塚からは「雪国の植物たち」というテーマで、日本海要素の植物の紹介や、飯山市鍋倉山で見られたナベクラザゼンソウについての研究成果報告がありました。

4題目は、町の産業観光課小池克英氏から、「癒し

の森」における森林セラピー事業として、これまで展開してきた様々な事業について発表をいただきました。当日の講演内容については、本特集のP4をご覧ください。

最後に、研究所の岸元から「北信濃におけるクマ事情」というテーマで、これからクマとどのように共存してゆけばよいか等について、最新のデータを含めた発表がありました。

意見交換会では、野生鳥獣被害に関係したイノシシの話題や、65年くらい前は今よりも確かに雪が多かったという体験談、あるいは原発事故に伴う放射能汚染の影響と町の豊かな自然との関連に関する質問、旧石器時代に野尻湖人がいたのかどうかなど、様々な質疑と意見交換がなされました。学術的に興味深い歴史を秘めた野尻湖の存在、そして身近にある自然の豊かさが実感できました。また雪には生活上悩まされることもあります。この地域の豊かな自然と風土を保つ上で、その一方で雪が重要な役割を担っていてもいるということを改めて確認できたと思います。



信濃町会場の様子



茅野市会場の様子

＜茅野市会場＞

茅野市は八ヶ岳火山と高原、そして縄文時代の遺跡群など、自然や文化において独自の特徴をもつ地域です。

講演では、はじめに研究所の浜田が「八ヶ岳の気象」というテーマで、列島規模の視野からの八ヶ岳周辺の内陸性気候の特徴、赤岳山頂付近の気象の特徴や高山における気象観測の難しさ等について発表しました。

つぎに、県版レッドリスト改訂に向けた取り組みについて、尾関が発表しました。県内で一度は絶滅したとされていた「コケリンドウ」が、最近茅野市と富士見町で再発見された話題や、八ヶ岳周辺地域が絶滅危惧種の分布密度が高い「生物多様性のホットスポット」であること等が報告されました。

続いて、地元で活動する茅野ミヤマシロチョウの会の福田勝男氏より、八ヶ岳山麓に生息するミヤマシロチョウの現状とその保全に関する活動発表がありました。会場脇のロビーでも、関連の展示をしていただきました。講演内容については、本特集のP5にご紹介しますので、ご覧ください。

4 題目は研究所の堀田が「草原にすむ鳥たち」と題し、霧ヶ峰でこれまでに行ってきた研究成果から、草原

性の鳥類の種類や生息数の変化状況を発表しました。

最後は「増え続けるニホンジカ」というテーマで、岸元が発表しました。ニホンジカはどのように増えてきたのか、どのような対策が考えられるのか、全県の資料と個別の調査データとともに解説しました。なお、ロビーでは諏訪地方事務所林務課によるシカの分布に関する最新の調査成果が展示されました。

つづく意見交換会では、八ヶ岳に風が集まる要因や、地球温暖化説への懐疑論、あるいはクロスズメバチが減った理由などの質問がありました。また、4月に草原維持を目的とした火入れが延焼事故になってしまったことに関連し、草原をまもることの意味に関する率直な疑問も出されました。ミヤマシロチョウの保全に関連し、子供たちの育成と自然体験の大事さに共感する意見や、環境保全に関わる市民活動に対し、行政の取り組みが不足しているというご意見もいただきました。

両会場とも、半日という限られた時間のなかで、疑問等に十分お応えできなかったところもあったと思います。これからも地域の方々と膝を交えて話す機会を大事にし、地域の思いを行政や研究所が受け止め、どのように支援できるかを考えていきたいと思えます。

公開セミナーのプログラム

■信濃町会場

2013年11月30日(土) 13:00 - 16:00

会場：信濃町総合会館 【参加者】70名

テーマ：「“これがまあ 魅力いっぱい北信濃
～おらが遺産を未来につなぐ～”」

講演内容

- ・「野尻湖の自然とその魅力」(近藤洋一氏)
- ・「雪五尺の時空分布」(富樫 均)
- ・「雪国の植物たち」(大塚孝一)
- ・「癒しの森と生物多様性地域連携」(小池克英氏)
- ・「北信濃のクマ事情」(岸元良輔)

■茅野市会場

2013年12月8日(日) 13:00 - 16:00

会場：茅野市議会棟大会議室 【参加者】178名

テーマ：「“八ヶ岳に抱かれた大自然
～その魅力をみつめなおす～”」

講演内容

- ・「八ヶ岳の気象」(浜田 崇)
- ・「県版レッドリスト改訂の取り組み
～絶滅種コケリンドウの再発見～」(尾関雅章)
- ・「「深山の妖精」からのメッセージ
生物との共生を考える 未来に生きる
こども達の為に」(福田勝男氏)
- ・「草原にすむ鳥たち」(堀田昌伸)
- ・「木曾地域のニホンジカ被害対策」(岸元良輔)